

① 新図書館の課題について

本町の図書館は老朽化がすすみ、時代に合った新しい図書館を建設することは誰もが切望していると思います。

老朽化が進む長与町公民館も現図書館と同一敷地の町有地であることから、それらを一体的に整備する方向で検討がなされてきました。

ビューテラス北陽台の敷地内に建設する事については歓迎する意見がある一方、反対する意見（議会への反対請願など）、また、町実施の図書館についてのアンケートの自由記述欄には、高台に建設する事に、高齢者、障害者の観点から多くの反対意見が記載されています（現在はホームページから削除）。

新設することは歓迎するものの、場所をめぐって町民の思いは分断されたまま今日に至っています。

そして、最近の議会一般質問のやりとりで、新図書館建設については、総合管理計画で、図書館と他の公共施設との複合化も含め検討していく。長与サイズで検討。住民の声を聞く機会を考えたい…などの答弁がされてきました。そこで質問します。

今後の検討は、平成27年策定の新図書館基本構想（令和2年改訂）の内容を再検討する必要があると認識したからの事であると想定しますが、町として、さらに検討、補充すべき課題はどのようなものかと考えているのかを伺います。

② コロナ禍における義務教育の経済的負担の軽減について

令和3年度予算審議で、住民税などの税収は、コロナ禍の影響により大きく減少する予測を立てていました。このことは裏を返すと、住民の収入は減少し、苦しい生活を余儀なくされるものと推察します。

前の議会で、学用品を購入できない世帯が出てくることを危惧した質問をしましたが、この間の自営業者の廃業、勤労者でも給与やボーナスの著しい減少などの報道をみると、新入学における学用品、制服・体操服、通学カバン、修学旅行の自己負担分などについて、その費用を捻出できない世帯が本町でも出てくるのではないかと大変危惧しているところです。何の罪もない子どもたちが辛い思いをすることは避けなければなりません。まだ使える制服や学用品を卒業を機に融通しあう仕組みや、修学旅行費、卒業アルバム代などの減免、貸付など、教育に力を入れている本町独自の策を講じる必要があると思いますが、町の見解（教育委員会、財政所管）を伺います。